

「一種のエンターテイメント グスタフ・アリンク」

アリンク・アルフレッド・子爵(指揮者)



2002年1月、第13回国際アマチュアピアノコンクールがパリで開催された。多くの熱心なピアノ愛好家を集めるこの催しは、広く知られている。ファイナルは、ソルボンヌ大学大ホールでおこなわれた。今年は、約90人のアマチュアピアニストたちが、世界各地からパリへとやってきました。ピアノにおい、アマチュアと呼ばれるのは誰なのか? そう、このコンクール

に関しては、年齢は18歳以上で、本業がピアニストであつてはならない。しかし、このコンクールに来るアマチュアの中には、確実にプロ並みに弾く人たちがいるのだ。いったい、どれほどピアノのレッスンや音楽教育を受けたままだい、まも受けているのか、どれだけ練習しているのか、そしてなぜプロのピアニストになる道を選ばなかったのか、不思議に思われるほどだ。この問いへの答えは、たいていの場合、おそく非常に理に叶っている。

こうした人々は別の分野での才能に恵まれており、そのため、選択をほいままにできたのだ。そして、われわれの誰もが知っているように、クラシック音楽家の人生はまるで楽ではない。コンサートの機会を得、キャリアを築き、それを高いレ

ベルで保つためには、時間と努力が求められるし、忍耐と大いなる幸運を必要とする。それなのに、収入はおおむね中層以下。だからアマチュアたちは幸運なのだ、プレッシャーもなくすぐれたレベルのピアノ演奏を続けることができる。いつでも好きなときにそれを演奏するのだから。

このコンクールには、法律家、技師、科学者、銀行員、ディレクター、それにパイロットが集まってくる。なかには、プロのピアニストにも比肩する驚くべきテクニックを示す人もいる。しかしそのほかの点では、連ついでに、彼らの解釈は非常に個性的であり、レパートリーの選択も、まったくのシリアスなクラシック音楽家と同じである必要はない。事実、アマチュアたちはシューマンやブラームス、スクリヤーピン、ベートーヴェン、バッハ、プロコフィエフの偉大な重要な作品も弾くが、それとともにガーシュウィン、アルベニス、グラナドス、ヒナステラ、舞曲集の作品を弾いてみせるといった、よりハイジューリスティックなふうのレパートリーを選ぶ傾向も見られる。このコンクールではすべてが受け入れられるのだ。制限時間が守られるかぎり。

この催しに来る聴衆には、ひとつの典型的なタイプがある。誰もこれが楽しんでおり、人々はあまり批判的ではない。審査員はプロのピアニストで成り立っており、誰が第2次に進んで誰がファイナリストになれるのかは彼らが決める。伝統としてジャーナリストの2大審査員団もあるし、聴衆も投票することができる。かくしてこの催しは、ピアノの弾き方をよく心得た、そして聴衆を喜

ばせることのできる勝者を出し得るわけだ。今年第1位と聴衆賞の両方を手にしたのはロサンゼルスから来たポール・ロメロだった。彼の弾きぶりには才気があり、演奏にあたってはアーティキュレーションにゆつたり時間をかけていた。

昨年の優勝者コンサートの契約は、1年に4回から25回に増えた。このアマチュアコンクールが、彼ら才能ある人々がピアノで成功を収めることに熱中し、やがて職を失う原因になる、ということはない。得るだろうか? しかしそう言った場合、これは憂えるべきことにあるやあらずや?

私について言えば、この催しは好きだ。別のジャンルのピアニストたちや、異なったアプローチを目的で演奏されるピアノのレパートリーを聴ける機会なのだ。つまり、全体の雰囲気、プロの場における雰囲気とは異なる、いるのだ。聴衆の二員となつてみると、観客の興奮と期待とが感じられる。演奏者がアマチュアだということは誰もが知っている。だから人々は、普通ではない演奏に驚かされた

いと強く願うし、ときにはいささか不出来の演奏があるだろうということも承知している。思うに、聴衆の大半は音楽家でなく、弾かれる曲をあまりよく知らないのではないだろうか。したがって、参加者がステージで自分らしさを大いに発揮すれば、彼はすでに聴衆のお気に入り

になる。審査員が下さねばならないのだが、しかし——私自身が審査員と二階にいてみて——その過程は、プロのためのコンクールのそれとは異なっている。決議に達するまでに、皆あまり多くの時間を費やさない。一方ではそれはいいことだが、一方では、もつとも適切な裁決システムについて、少なくとも審査員本人たちに対しては、初めからクリアかつ十分に明確になるように、もう少し考える時間を費やしてはどうかと私は提案したい。現時点では、しかしながら、主催者のジェラルド・ベッカーマン氏は心配していないようだ。というのも明らかに彼は、その状況をうまくさばっているのだから。

若いプロのピアニストとして賞を得ることが非常に重要だ、ということも私もよく承知している。というのも、それはキャリアの始まりを意味するからだ。アマチュアたちは、それほどの強いプレッシャーに苦しむ必要はない。したがって私はどうしても考えざるを得ないのだ。このコンクールは血のにじむような真剣なコンテストというより、むしろ楽しい種類のエンターテイメントなのだ(たとえ参加者の中に、違つた考えと反応を示す人がいたとしても)。ジェラルド・ベッカーマン氏は私に同意してくれたいと信じている、なにしろ彼はこの催しを、アンソニー・コンクールと呼んでいるわけだから。

個人的には、音楽家たちがこうしたなごやかな雰囲気の中に音楽愛好家たちと出会うこの催しに足を運んだことを、非常に幸せに思っている。今年、これからは、私はプロのピアニストのためのコンクールに足を運んでレクチャーを続けるだろう。才能ある若い人々に助けの手をさしやるのは急務だと、私はつねづね強く感じているからだ。彼らがクラシック音楽を通してキャリアを築くため闘っていることを、私は知っているの

「訳: 浜田吾愛」

「楽へ」アカデミズム」

ピアノ300年グラン・フェスティバル

文 浜田吾愛

19世紀に活躍したピアニスト・作曲家、ヨハン・ネポムーク・フンメル。現在のスロヴァキアに生まれた彼は、幼くして一家ともどもウィーンに移住、やがてモーツァルトの内弟子としても知られるようになる。作曲活動もさかんにおこない、ベートーヴェンと人気を二分する音楽家として活躍した。

「モーツァルトとショパンをつないだ作曲家は、フンメルひとりです」
そう語るのには、日本J.N.フンメル協会長の岳本恭治さん(写真裏)。「ショパンへの影響は、かなりありますね。フンメルは『古典のショパン』、ショパンは『ロマン派のフンメル』だと言つてもいいかもしれせん」
フンメルはいわば「ピアニストのルーツ」だと岳本さん。
フンメルからショパンが受け継いだ



ものを、現代人も継がなくてははいけません。現代人も継がなくてははいけません。現代人も継がなくてははいけません。

そうした熱心な研究・演奏活動が本日の国際フンメル協会に認められ、「世界公認」されたのは2001年の3月だった。このたび、その1周年を記念して、『ピアノ300年 グラン・フェスティバル』がおこなわれる。岳本さんをはじめとするピアニスト7人が、1709年から2002年まで、約300年にわたるピアノの曲を次々と弾いていくという、スケールの大きな催しだ。しかも曲目には、ふだんピアノの演奏会では聴くことのできない、バイエルやブルグミュラーの練習曲も入っている。

「奏法史を研究していますと、やはり練習曲は避けて通れない分野なんです。ちょうど古典派からロマン派にかけて、ピアノの改良にもなつて奏法も変わります。その中で練習曲は、ピアニストにとって、テクニクの宝庫なんです」

一方、ショパンのエチュードやフンメル、リストの『ラ・カンパネラ』など、難曲も取り入れられている。協会の趣旨は、「アカデミックなものを楽しく」。3歳の子どもから

一般のピアノの愛好家はもちろんプロのピアニストまで、誰もが楽しく弾き、そのうえ内容はアカデミック、それが目標だ。そうした趣旨に基づいたうえで、今回の企画というわけだ。有名な曲はあえて連弾にするなど、趣向を凝らした。

「最終的には、モダン・ピアノで当時の様式感を出したいな」と思つていま

■ピアノ300年 グラン・フェスティバル〜日本J.N.フンメル協会世界公認記念特別例会〜 ピアノを読む・ピアノを聴く

3月31日(日) 紀尾井ホール
出演: 岳本恭治(ピアノ・ご案内) / 山季布枝(ピアノ) / 雁部一浩(作曲・ピアノ) / 藤川順子(ピアノ) / 八木原由夏(ピアノ) / 小柳信道(ピアノ) / 間瀬千子(ピアノ)
【第1部】14:00開演
日本J.N.フンメル協会世界公認記念式典&ピアノ300年 グラン・フェスティバル I
●1709年〜1750年(バロック) (ロココ) ユスティーニ…ソナタ作品12短調(山季) / クーラン…シテール島の鐘、ラモー…鳥のさえずり(藤川) / J.S.バッハ=ブソニニ編曲…オルガン・コラール木短調(雁部) / ヘンデル=ケンプ編曲…メヌエット短調(山季) / D. スカルラッティ=タウジヒ編曲…バスターレとカプリッチョ(八木原) / C.P.E. バッハ…ロンドイ短調wq.56(山季)
●1750年〜1830年(古典) J.C. バッハ…ソナタ変ロ短調作品76第1楽章(藤川) / クレメンティ…2台のピアノのためソナタ変ロ長調作品16第1楽章(藤川・岳本) / モーツァルト…4手のためのソナタ長調Kv.381第1楽章(八木原・山季) / ベートーヴェン…『月光』第1楽章(山季) / フンメル…ソナタへ短調作品20第1楽章(岳本) / フィールド…ノクターン長調(藤川) / ウェーバー…舞踏への勧誘(藤川・岳本・八木原・山季) / チェルニー…ロンド・アパシオナー ト短調作品68(八木原) / モシェレス…ロンドイ長調作品85(岳本)

【第2部】18:00開演
ピアノ300年 グラン・フェスティバル II
●1830年〜1900年(ロマン) シューベルト=ゴドフスキー編曲…楽興の時第3番(雁部) / バイエル…練習曲より、ブルグミュラー…アラベスク、メンデルスゾーン…エチュード短調(山季) / ショパン…エチュード『木枯らし』『大津波』(山季・小柳) / シューマン…パガニーニの奇想曲による練習曲作品3より第2番(八木原) / リスト『ラ・カンパネラ』(小柳) / ドライシュック…幻想曲作品31(山季) / ヘンゼル…12のサロン練習曲集作品5より第2番『魔法使いの舞曲』(八木原) / ラフ…組曲第5番作品162より第3曲『レントラー』(岳本) / プラームス…4つの小品より作品1194『ラプソディ』(八木原) / バダルジェフスカ…乙女の祈り―聞き届けられた祈り(山季)
●1900年〜2002年(近代・現代) ドビュッシー…アラベスク第1番、グラナドス…アンダルーサ(藤川) / ラフマニノフ…エレジー作品31、スクリヤーピン…エチュード作品8-12(雁部) / ラヴェル…亡き王女のためのパヴァーヌ(藤川) / バルトーク…アレグロ・バルバロ(山季) / 雁部一浩…ピアノのための幻想曲作品25(間瀬) / 12手(藤川・岳本・八木原・山季・間瀬・雁部)

(カッコ内は演奏者)

問い合わせ: 東京労音 03-3204-9933 / 日本J.N.フンメル協会 03-3425-5571 / ガブリエル・ムジカ 03-3904-9055
主催: 日本J.N.フンメル協会/東京労音/ガブリエル・ムジカ
後援: スロヴァキア共和国大使館/イタリア文化会館(イタリア大使館文化部) / フランス大使館文化部/スタインウェイ・ジャパン株式会社/ユーロピアノ株式会社/日本ベゼンドルファー/国立音楽院/ヤマハ株式会社/株式会社河合楽器製作所